

暫定議題  
第 24 回科学委員会会合に付属する拡大科学委員会

南アフリカ、ケープタウン  
2019 年 9 月 2-7 日

1. 開会
  - 1.1. 参加者の紹介
  - 1.2. 会議運営上の説明
2. ラポルツァーの任命
3. 議題及び文書リストの採択
4. SBT 漁業のレビュー
  - 4.1. 国別報告書の発表

2017 年 10 月に開催された遵守委員会会合報告書パラグラフ 19 では、「メンバーがどのように帰属漁獲量を推定したのかにかかる透明性が重要であり、これを将来の拡大科学委員会 (ESC) の報告の一部とすることが合意された」としている。メンバーは、ESC に対する各国の国別報告書の中で、又は別の会合文書として、この情報を提示する必要がある。
  - 4.2. 事務局による漁獲量のレビュー
5. CCSBT 成熟度ワークショップからの報告
6. 生態学的関連種作業部会 (ERSWG) からの報告
7. 第 10 回オペレーティング・モデル及び管理方式 (OMMP) に関する技術会合からの報告
8. 蓄養及び市場データの解析に関する方法論の開発

2018 年の拡大委員会 (EC) 会合において、[2019 年 ESC 会合におけるオーストラリア蓄養解析及び日本市場解析の議論に関する付託事項](#)が策定された。ESC 会合は、これら 2 つの問題に関する議論の歴史をレビューし、考え得る未考慮死亡量を推定するための方法論を策定することが期待されている。2019 年の ESC 会合での議論を促すため、EC はメンバーに対し、考え得る未考慮死亡量の推定に関する方法論の策定にかかる文書を提出するよう奨励した。さらに、方法論の開発という ESC の任務を支援するため、2 名の独立専門家 (蓄養専門家と市場専門家それぞれ 1 名) が任命されている。独立専門家は、これらの問題の背景について承知すべく過去の報告書及び情報をレビューし、技術的側面について独立的な助言を行うとともに、前に進むための方法に関するアイデアを提示することとなっている。独立専門家は、[付託事項](#)のセクション 3(2)及び 3(3) に定められた蓄養及び市場解析の具体的な論点についても追加的な助言を行うことが期待されている。

蓄養及び市場の問題について検討するため、各会議日の全体会合のうち約 1 時間をこれに当てることが想定されている。さらに、次の全体会合で検討するためのオプションを

用意するため、会議の合間にメンバーと専門家の間で補完的な議論を行うことが見込まれる。

## 9. 科学調査計画及びその他休会期間中の科学活動の結果のレビュー

### 9.1. 科学活動の結果

### 9.2. 非メンバーによる SBT 漁獲量に関する解析のアップデート

## 10. 漁業指標の評価

## 11. SBT の資源状況

### 11.1. メタルール及び例外的状況に関する評価

### 11.2. SBT 資源状況の概要

## 12. SBT 管理助言

## 13. 新 MP の開発

この議題項目は、本会合における最重要議題の1つである。この議題項目に関する議論は、本議題が示す議題順よりも早い段階で開始することが想定されている。本件は、6月のOMMP会合に先立って行われるオペレーティング・モデルのアップデートの際に問題が発生したかどうか、及びOMMP会合における候補管理方式の試験結果のレビューの進捗状況に一部左右される可能性がある。

### 13.1. 候補管理方式 (CMP) のレビュー

2019年6月のOMMP会合では、オペレーティング・モデルの再条件付けを行い、ESCに提示するCMPを絞り込むためにCMPの初期更新バージョンをレビューする予定である。メンバーは、OMMP後にそれぞれのCMPを適切にアップデートし、ESCに対する文書としてこれらを発表する。さらに、2018年のESC会合では、CMP開発者がESC会合文書の作成を待つことなく他のCMP開発者の結果を閲覧することができるよう、2019年のOMMP会合とESC会合との間に、CMP開発者はそれぞれの結果をGitHubにアップロードするとともにShiny Appを活用することが合意された。このことにより、CMP開発者同士が適時的に他者から学ぶことができ、またESC会合の前にCMPを調整することが可能となる。ESCは、ESCに対して提出されたCMPのレビューを行う。

### 13.2. 拡大委員会 (EC) に対する CMP に関する助言

ECは、2019年10月の会合において管理方式を選択及び採択することを目指している。2018年のESC会合では、ESCがコミッショナーによる要件を全面的に承知しておくことができるよう、2019年のESC会合の前に各国科学者がそれぞれのコミッショナーと協議しておくことの重要性に留意した。ESCは、ECによる管理方式の選択プロセスに資するため、ECに対してできる限り絞り込んだCMPセットに関する助言を行うことを目指している。

## 14. 科学調査計画のアップデート

2018年のESC会合は、科学調査計画のアップデートに関する予備的な議論を行った ([SC23 報告書](#) パラグラフ 170–176 を参照)。ESCでは、科学調査計画 (SRP) にかかる本格的な議論は2019年又は2020年のいずれかに行うことを想定している。SRPは重要な計画であり、適切な議論を行うためにはメンバーがSRPのアップデートに関する実質的な文書を作成する必要がある。こうした文書が作成されなかった場合、又は会合時間が十分でないような場合は、本件について十分な議論がなされるよう確保するため、この議題項目を2020年まで先延ばしすることもあり得る。

15. 2020年におけるデータ交換要件

16. 調査死亡枠

17. 2020年（及びそれ以降）の作業計画、スケジュール及び研究予算

17.1. 2020年のスケジュール及び見込まれる予算と、作業計画及び予算に対する科学調査計画の影響の概要

17.2. 次回会合の開催時期、期間及び構成

18. その他の事項

19. 会合報告書の採択

20. 閉会